

○司会 ただいまから平成29年度第1回越谷市総合教育会議を開会いたします。

私は、進行を務めさせていただきます市長公室長の宇田川と申します。よろしくお願いをいたします。

初めに、高橋市長から御挨拶をお願いします。

○高橋市長 皆様、こんにちは。

平成29年度の第1回の総合教育会議ということで開催をさせていただきます。

皆様には大変お忙しい中、総合教育会議に御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

さきの市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から御支持をいただきまして、引き続き市政を担当することになりましたので、どうぞ今後ともよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

また、市長選挙において私が掲げた政策項目の中には、小・中学校のトイレ洋式化の整備推進など、教育に関するものもあります。今後、これらの施策を積極的に推進してまいりますので、皆様方の一層の御指導、御協力をお願い申し上げます。

本日は、教育行政における重点的な取り組みにつきまして皆様と活発な意見交換を交わし、ぜひとも今後の教育に生かしていただきたいと考えております。限られた時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願いを申し上げまして、私の挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願い致します。

○司会 それでは、初めに事務局から会議資料の確認をさせていただきます。

○事務局 それでは、本日配付をさせていただきました会議資料でございますが、次第のほかにA3判カラー刷りの資料1枚、それとA4判です。ホチキスどめの資料で、左上に平成30年度教育行政重点事業一覧表1の1と記載のあります、こちらもカラー印刷刷りの資料となります。次第も含めまして3点ということになります。御確認の程よろしくお願いいたします。

○司会 資料の過不足等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

次に、会議の公開についてですが、本日の会議につきましては、非公開とすべき事項はございませんので、公開とし、また傍聴につきましても許可したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○司会 それでは、本日の会議は公開とし、傍聴を許可したいと存じます。

本日、傍聴希望者はいらっしゃいますでしょうか。

○事務局 いません。

○司会 それでは、傍聴についてはあらかじめ許可しておきますので、この後、傍聴人がいらっしゃいましたら、適宜誘導をお願いいたします。

それでは、これより協議事項に入ります。

協議事項の(1)平成30年度教育行政における重点的な取り組みについて、配付資料に基づき教育委員会から説明をさせていただきます。その後、基本目標ごとに皆様の御意見をお伺いしてまいりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

○瀧田学校教育部長 それでは、教育振興基本計画における3つの基本目標ごとに、平成30年度に重点的に取り組みたいと考えている内容について説明させていただきます。

お手元にA3判横の重点的な取り組みを基本目標ごとにまとめた資料、それからA4判縦の重点事業の内容について詳細に記載した6枚つづりの資料をお配りいたしました。

A3判横の資料に基づいて説明させていただきますので、各取り組みの詳細につきましては、恐れ入りますが、A4判の資料を御参照いただければと思います。

初めに、「基本目標の1. 生きる力を育む学校教育を進める」についてです。

こちらは、学校教育の分野における取り組みとなっております。

「施策の方向1. 自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む」では、①としまして時代に即した学校教育の推進として、ICTを活用した教育の充実を図るため、プログラミング教育導入へ向けた研究及び指導計画モデルの作成など、校内系ネットワークを活用した児童・生徒の学力及び情報活用能力の向上に努めます。

また、学校図書館の充実を図るため、学校司書の増員や効果的な配置など、学校司書の効果的な活用に努めてまいります。

②「伝統文化を尊重し、国際性を育む教育の推進」として、小・中学校における英語教育の推進と語学指導助手の活用を図り、新学習指導要領の移行措置に対応するよう、小学校外国語科の実施に向けた環境整備に努めてまいります。

続いて、「施策の方向2. 自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む」では、③としまして、心の教育の充実として道徳教育の振興を図るため、教職員を対象とした研修会の開催など、新学習指導要領に対応する道徳教育の実施に努めるほか、体験活動の充実を図り、越谷市手話言語条例を踏まえた授業の実施など、共生社会の実現に向けた福祉教育を実現、実施してまいります。

④教育相談の充実として、教育相談体制の充実を図るため、保護者の悩みに寄り添う教育サポートブックの新規作成など、原因や内容が複雑化し、長期化する教育相談への適切な対応に努めてまいります。

⑤健康教育の充実として、児童・生徒の体力向上と健康教育の推進を図るため、中学校にて生活習慣病に関する講演会を新規実施するなど、健康と命の大切さについて学ぶ健康教育の実施に努めてまいります。

⑥学校給食の充実と食育の推進として、栄養管理の充実を図るため、学校給食レシピ集や原材料等がわかりやすい献立表を新たに提供するなど、給食献立の研究及び食物アレルギーへの対応に努めてまいります。

「施策の方向3. 信頼される質の高い教育環境をつくる」では、

⑦教育支援体制の充実として、多様な就学機会への支援を図るため、新中学1年生に対する学用品費の入学前支給を拡充実施するなど、就学援助制度の円滑な実施と適切な運用に努めてまいります。

また、特別支援教育支援員等の配置を適切に行い、児童・生徒の豊かな学校生活と円滑な学校運営のための支援に努めるほか、児童・生徒一人一人のニーズに応じた特別支援教育の推進を図るため、専門家による指導回数を拡充するなど、発達支援訪問指導の充実に努めてまいります。

⑧教職員の資質向上と研修環境の充実として、教職員の健康の維持と管理を図るため、メンタルヘルス対策としてストレスチェック事業を強化するなど、教職員の心身の健康管理に努めてまいります。

⑨地域に根差した特色ある学校づくりとして、学校評価の充実を図るため、学校運営協議会を新規に設置し、コミュニティ・スクールの推進に努めてまいります。

○**横川教育総務部長** 続きまして、「基本目標2. 生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する」についてでございます。

こちらは、生涯学習の分野における取り組みとなっております。

「施策の方向1. 生涯を通じた学習活動を推進する」では、①として、学習活動の充実と学習成果の活用として、ライフステージ、ライフスタイルに対応した学習機会の充実を図るため、市民の多様なニーズに合わせ、公民館における各種学級・講座の開催に努めてまいります。

②自然体験や科学体験の充実として、科学技術体験センター事業の充実を図るため、子どもから大人まで幅広い方を対象とした各種教室・講座を実施するなど、ライフステージに応じた科学体験事業の実施に努めてまいります。

③図書館の充実として、図書館機能の充実を図るため、児童書の充実やLLブックの収集など、資料の計画的な収集に努めてまいります。

また、図書館サービスの充実を図るため、利用者が資料や情報を探しやすいよう工夫を凝らすなど、市民の読書活動の推進に努めるほか、子ども読書活動の推進を図るため、調べ学習用の資料の充実など、学校等との連携と子どもが読書に親しむ機会の提供に努めてまいります。

「施策の方向2. 芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する」では、④特色ある地域文化の振興と普及として、伝統文化の振興と継承を図るため、郷土芸能体験教室における開催内容を改善するなど、伝統芸能の普及に努めてまいります。

⑤文化財の保存と活用として、文化財の保存と活用を図るため、民具や発掘調査における出土品等を紹介する展示を行うなど、歴史資料の公開に努めてまいります。

最後に、「基本目標3. 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」についてです。

こちらは、生涯スポーツの分野における取り組みとなっております。

「施策の方向1. 健康・ライフスタイルづくりを支援する」では、①活動機会の充実として、スポーツ観戦機会の充実を図るため、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたPRなどの機運醸成活動に努めるほか、プロスポーツや東京オリンピック練習会場としての招致など、スポーツ大会やスポーツイベントの誘致に努めてまいります。

「施策の方向2. スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る」では、②組織の充実として、スポーツボランティアの養成と登録を図るため、スポーツボランティア活用団体等への制度のPRや、さいたま国際マラソンのボランティアを募集するなど、ボランティア活動の推進に係る取り組みを進めてまいります。

「施策の方向3. スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る」では、③施設の充実等利用促進として、屋外体育施設の利活用の促進を図るため、利用者の安全性に配慮した施設改修や定期的な設備点検及び修繕など、屋外体育施設の修繕等に努めてまいります。

説明につきましては、以上でございます。

○司会 ありがとうございました。

それでは、まず基本目標1の学校教育に関して、御意見等はございますでしょうか。

○進藤委員 では、今さらのようですけれども、この重点施策を見ると、本当にたくさんの方のことをやらなくてはいけないのだなあとと思います。特に3点を並べてみると、その中でも学校教育に関連していることというのは項目も多くて大変だと思います。もちろん、新しい学習指導要領に伴って、例えば道徳教育であるとか、あるいは小学校

の英語の導入に先立ってALTの増員など、必然の事業もあるということは否めないのですけれども、当然何かをするに当たっては大なり小なり予算というものがついて回るものであり、だからというわけではありませんけれども、市長さんの顔を見ると、いつもお願いをすることになって、何だかとても何か申しわけないなというふうな気持ちになってしまうというのも本当のところではあります。

ところで、本年はエアコンの設置をしていただいて、本当にどうもありがとうございました。2学期からの稼働だったので、実感はまだいま一つというところだと思うのですが、次年度以降はさぞ快適な学習環境を、先生も生徒さんも大いに感じることができるのではないかなと思っています。

教育関係の事業に関しましては、このエアコンのように、すぐに効果を実感できるものもあれば、そうではなくてある程度長い期間かかってその効果が生じるものもあるかと思えます。事業によっては、その事業が終わってしまってから効果があらわれるというものもあるかもしれません。一般的な経済活動と違って、短期間のコストパフォーマンスというのは余りよくないというものもあるかもしれませんけれども、いろいろ事業があつて、お願い事も多くて大変恐縮ですけれども、関係者の方々には長い目で温かく見守っていただいて、ぜひいろいろな御配慮を賜ればありがたいと思えます。

○市長 予算は、私が執行責任者ですから、それは遠慮なく言ってください。教育委員会は、お金は直接、管理・執行するというものではありませんので、私がいつも言っているとおおり、学校から上がってきた要望については、できる限り俎上にのせてほしいと。その中で本当に必要なものかどうかということとか、限られた予算の範囲がありますので、全てが満足のいくように予算化、計上できないということも多々あるわけですが、そこは教育委員会としっかりと議論を重ねながら、今やるべきことは何かと、今本当に何が必要なのかというようなことを真剣に捉えて議論しながら優先順位を定めていきたいと思っておりますので、特に教育委員の皆さんには、さまざまなお話、市民の間からの声もあるでしょうから、遠慮なくそれについて出していただきたいということを期待もしております。

○進藤委員 特にあとは今回、市長さんの公約にもあるように学校のトイレの洋式化ということも、従来よりも結構議論の対象となっておりますので、大変期待しておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

○高橋市長 エアコンはようやく実現することができまして、この前の東越谷小学校の内覧会に行きましたときに、子どもたちから非常に喜ばれました。これについては、私も本当にやってよかったなあという実感が湧きました。子どもたちがどれほど期待

していたかということがわかりました。やはり早くやるべきだと思いましたがけれども、なかなか予算が、大変大きな金がかかるものですから、PFIという良い手法も採用でき、実際に実行することができました。当初の計画より1年おくれましたけれども、3カ年計画のうち1年早く完了できたということで、45校全部、どこが先でどこが後だということもなくできたということは、あわせて私自身もうれしく思いました。

トイレは本当に早くやりたいということで、私もまだまだ十分な認識がなくて、毎年計画的にやりますとは言っていたけれども、内容を見ると、補助金を活用した取り組みについては、より具体的に今回、教育委員会からの提起なんかもあって話を聞きましたら、活用できるものは補助、起債を適用してやるべきだということを改めて認識しましたから、教育委員会の担当のほうでは、トイレの洋式化計画をつくって積極的に取り組むという姿勢も明らかになりましたので、今まで単独でやっていたということについては改めて、できるだけ早くできるように進めたいと思っていますので、計画をもとに、国に補助要望をして、つけば必ずそれは実行するというのでやっていきますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会 ほかにございますでしょうか。

○住田委員長 私は、今、トイレの話をしたものですから、ついでに。

全面的に洋式化するのか、それとも和式のものを残すかというのも少しは考えたほうがよい。こう言うとなんだけれども、日本の伝統とか文化とかというの、今はマンションとかは全部洋便器しかない、というようなことを考えると、外に出ていったときに、まさに生きる力ではないですけれども、いろんなところに対応して、特に男子なんかは、立って用をたすことも知らないような男の子がいます。座ってするものだと。そういうような家庭も随分耳にします。ですから、全面的にかえるというのではなく、しゃがんでやるものもないと。また、例えばそういう場所に行ったときに、それに対応できないとか。それはやっぱり残すものはある程度残していただかないと困るのかなと。全部洋式というのはいかかなものかなあというふうに、ちょっとそんなことを耳にしているものだから。

○高橋市長 これについては、洋式化7割ぐらいということを知っているのですが、今、先生が言ったのとは理解していなかったです。

○住田委員長 男の子であっても洋便しかしたことがないと。私もちょっとびっくりするような話が。

○高橋市長 そんなのあるのですかね。子どもの間では。

○紺野学校管理課長 トイレの洋式化ということで進めておりますが、私どもの今考え

ているのは、おおむね7割を洋式トイレにしていくということで。委員長さんがおっしゃったように、伝統を残すという意味もあるのですが、城ノ上小学校というのが一番新しくできた学校でして、そこについては当初から洋式便器のほうを多く整備しております。ただ、全て100%洋式ということではなく、大体ブースの中で1基ぐらいずつは和便器を残しているという状況です。それでいきますと、おおむね70%の洋式化率ということになっておりますので、我々のほうも一応それを現在目指しての整備というふうには考えております。

○高橋市長 先生方に聞きたいけど、本当に子どもたちはそういうちゃんと、今だどこの便所だって立ってする便器はあるじゃないですか。あれがあるから、今、先生が言ったようなことは実際にあるのかなあと。

○住田委員長 私もちよっと驚いたことがあるのですが。何で個室に入って男の子が毎度毎度と思うのですが、わざわざ。そういう子もいるのですね、実際。

○瀧田学校教育部長 これは聞いた話でもありますけど、新しいおうちが建って、そうすると自宅には立ってする男子トイレはないですよ。普通、洋式のトイレがあるわけで。そうすると、お母さんが男の子にも座ってしなさいという指導をするのですよ、家庭の中で。どうしてかという、それを掃除するのが、お母さんが結構毎日のことで苦勞するので、座ってしなさいと。ですから、それがお父さんまで含めて、家庭では男性もみんな座ってやるというルールがあることが結構多いようです。

○吉田教育長 今、小1プロブレムという問題があるのですが、要するに幼稚園、保育所から小学校に上がるときにスムーズに移行ができない。その中の一つにトイレの使用というのがあるのですが。小学校へ上がる子どもを持っているお母さん方は、トイレをどうしようかと。和便器でやったことないから、美園のイオンまで連れて行って練習をするのだという話があるようにも聞いております。ただ、委員長さんがおっしゃったように、立ってするということもできないというのは、それもどうかというふうに思うので、70%の目標ということで今進めているということです。

○住田委員長 逆に女子も、和便器というのが非常に困るという話まで聞いておりますから、全面的にというのは、地方に行ってそれがないところに行ったときに困ってしまうのかなあという。まさに生きる力ですけど。

○吉田教育長 保護者の要求としては、男の子はどうも個室トイレに行くのを嫌がる、我慢してしまうのだと。だから、全部洋便であれば、区別ないから、そういうふうにしてくれないかという要望もなきにしもあらずなのですけど。

○住田委員長 羞恥心みたいなものが。

○吉田教育長 いろいろあります。

私のほうから教育委員として1つ。国の研修とか、それからあるいは国への要望とか、中核市教育長会の副会長を仰せつかっているのですが、そういう活動に参加することが往々にしてあるのですが、今、国のほうでは、I o Tという何か聞きなれない言葉ですけれども、インターネット・オブ・シングスというものらしいのですが、そういうことやビッグデータ、あるいはA Iを初めとする技術革新が今後一層進むだろうと。そういう社会にあっては今までの生活とは大きく変わっていくのだということで、超スマート社会と言っているのですけれども、それが間近に到来することが予想されています。

このことは、遠い将来かなというふうに考えがちですけれども、スマホがもう既に普及しておりますし、あるいはお掃除ロボットが今や犬に餌をやることになっているという話も聞きますし、さらに「10年後、君に仕事はあるのか？」という本を書いた人が、これは藤原さんという人なのですけれども、現在、奈良市立一条高校の校長さんなのですが、今の小・中・高生は、ネット内に構築された世界で人生の半分を過ごすというふうになるのではというようなことも言っております。現実には最近の新聞紙上でも出ていたかと思うのですが、A Iで消える銀行の仕事というのがありました。マスコミでも取り上げられていることがあるわけですけれども、こういうことから明らかにしているのかなあと、超スマート社会の近々の到来ということがですね。最近、将棋のプロ棋士がA Iに勝てないと。つい何年か前までは勝っていたという時代があったのですけれども、一気に追い越されてしまうというようなことなので、かなりスピードを持って、こういう社会が到来するということが予想されるわけですけれども。

そんな中、国では、現在審議中ではありますけれども、この超スマート社会を生き抜くための能力の育成が必要であるというふうにして、I C Tを活用した教育の充実を目指していかなければいけないとしているわけですが、そうしたI C Tを活用した教育の充実を目指すために必要な教育環境の整備というのは、今後ますます重要になってくるのかなあと。今はもう既にフロアごとに無線L A Nが設置されて、しかも大型モニター、パソコンを入れて、これによってそういうI C Tを活用した授業が市内ではかなり進んできているわけですけれども、さらにそういったことを整備していく必要があるのかなあと考えております。ちなみに国では、I C Tを主体的に使いこなすとともに、人間ならではの感性や創造性を伸ばしていかなければならないということも上げております。

また、さっき部長のほうからも説明がありましたけれども、プログラミングをするときのプロセスやノウハウを勉強して、日常生活にも生かせるような考え方や物事の手順を身につけさせる、いわゆるプログラミング教育、これは大学と提携して既に実践して

いる地域もあるわけですがけれども、これについても進めていく必要があるのかなあと。先ほども申し上げましたが、いろんな機会で技術革新に伴う社会の変化は非常に大きなものがあるのだということを盛んに言われているというところがございます。本市としても、そういったものに対応していくことが近々に求められてくると思っています。

もう一点、施策の方向1に関して、小中学校における英語教育の推進、先ほど進藤委員さんのほうからもありましたけれども、国では第3期教育振興基本計画を策定する準備をしているわけですが、それに向けて審議する中で、社会の持続的な発展を牽引するための多様な能力の育成を今後の教育政策に関する基本方針の一つに掲げておるわけですが、その中で豊かな語学、それからコミュニケーション能力を育成することを目標として定めています。

その中で、測定指標というのを定めているんですけれども、その候補として中学生卒業段階で英検3級以上の割合50%という目標を掲げております。また、国では平成32年度から実施される大学入学共通テストにおいて、英語については民間の資格試験、あるいは検定試験を活用するという方向性を打ち出しております。こうしたことから、ALTの活用を含めた小学校英語科の実施に向けた環境整備を図るとともに、今後、中学生に対してある程度の検定資格を取得できる、そういった授業の実施を検討する必要があるかなあとも考えております。

今のところ、市長さんの御理解を得て、こういったものに対して手厚い手当てをしていただいているところですがけれども、今後さらに5年、10年を考えると、今言ったようなことがさらに必要になってくるのかなあと考えております。

○高橋市長 まずパソコンとか、使うところから始まるのだけれども、しかしパソコンを自分で活用するようにならないと、パソコンは何か指示をしなければ動かないはずだから、指示するのは人間なのだよね。そこのところをちゃんとわきまえて教育するようにしないといけないよね。

私も断片的なことだけれども、結局だんだんと機械で、計算が最大のパソコンの機能だったわけだ。瞬時に計算をやるという。だけれども、計算するにはいろんな条件、データを集めて、それを解析というのかな、集計したりするのはパソコンでできるけれども、データを拾い集めてくるのはやっぱり人間だから、人間でなければできない調査機能とか、そういう資料集めとかというのは一番大事なのだよね。だから、どういう資料を集めるかというのも、パソコンでもだんだんと整理されてくるのだろうけれども、基礎データは人間でなくては集められないのだから、その能力をこれからつくっていかなくてはいけないね。

○吉田教育長 おっしゃるように、プログラミング教育というのは、人間はあくまでもパソコンの、あるいはそういう情報機器の使い手なのだよというところを認識するという意味でも大事なのかなあと考えております。ただし、プログラミング教育をどうやって進めていくのかについては、今後の検討課題ですか。それとも策はあるのですか。

○鈴木教育センター所長 プログラミング教育につきましては、現在教育センターで、どのような教材をどのように活用して、児童生徒のプログラミング的思考を育むか、についての研究を行っています。この12月に、弥栄小学校を会場に越谷市教育研究会「視聴覚教育部会」の授業研究会において、3年生を担当している教員が、プログラミング教育の授業を公開します。教育センターでは、この授業の指導案作成段階から支援を行い、プログラミング教育の在り方について学校現場の教員とともに研究してまいりました。また、ICT出前研修においても、昨年度よりプログラミング教育に視点をあてた研修を実施しております。今後、平成32年度からの全面実施に向けて、先行的に取り組む学校への支援や、他市の取組内容の把握を通してさらに研究を深め、指導計画や指導法のモデルを作成し、各学校に提供し、円滑な実施をサポートしてまいります。

○司会 ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、基本目標1の学校教育につきましては以上とします。

次に、基本目標2の生涯学習に入ります。

御意見等はございますでしょうか。

○荒木委員 先ほどの説明にもありましたように、教育委員会では生涯を通じた学習活動や芸術文化活動を推し進めておりますが、少子化・超高齢化社会におきまして、私は日ごろ、幼稚園児や小中学生を育てながらも越谷市のサークル活動に参加したり、またリタイア後に越谷市の講座ですとかコンサートなどに積極的に足を運ばれたりする市民の方々に直接たくさん接することがあります。そういった市民の方々の学ぶことの楽しさだとか、学びたい欲求であるとか、芸術に親しんでいる生き生きとした姿などを見て、日々の生活をより精神的に豊かにする生涯学習や芸術文化活動で力になっていければと考えておりますし、市長さんには今後もそれらの発展に御支援をお願いできればと考えております。

○高橋市長 今、文化団体というのは何団体ぐらいあるのか。

○福田生涯学習課長 27団体でございます。文化連盟加盟団体は27団体あります。

○高橋市長 文化連盟の皆さんは、みんな高齢者が多いね。人生を謳歌している人が多

いよ。若い人がどこまで一般の中でやっているかという、若い人はなかなか働くことが第1で、あるいは子育て、男性であれば働き、女性であったら子育てが大変だから出られないのだろうと思うのだけど、私はいいことだと思うよ。お年寄りが元気でみずから楽しんでやるということは、最高の生活というか生き方として一番いいと思うから大いに進めたいのだけど、若い人をそういうところに早くからどう参加できるようにするかというのがこれからの課題かなと思う。学校ではちゃんと教えている。一般の社会人になってからなる人が少ないというのは、1日24時間をどう使うかということ、一日一日の日常生活の設計というものを考えていくようなことをしないといけないのではないかなと思うね。

そういう自分で楽しむとか何かというのは時間をつくれればできるのだよねと私は思っているのだけれども、そういう意欲をどう今度は育てていくかということもまた大事。やっている人はやっているのだから。30代でも40代でも、できないことはない、働いている人たちも。それには自分からそういう興味を持ってやってみようというような意思があればできるのだよね。そういう意欲をどうやってつくっていくかというのが難しいのだけども。若いときにやっていると、比較的中高年になってもやる。ある程度自分にやった経験があるとか自信があれば、30代、40代も、ちょっと時間ができるとやってみようかなとなるのだよね。そういう人をいかに引き出していくかと。それにはリーダーが必要だなあということを感じているのだけどもね。

○住田委員長 私もこの前、市民文化祭ですか、コミセンであった。ちょっとのぞいたのですけれども、非常に熱心にやっていて、発表の内容もレベルの高いのが結構。それから体験コーナーといいますか、それは若い方も随分興味を示しているように私は感じたのですけれども。確かにおっしゃられるように、リーダーの育成といいますか、できるだけ市民が若いときから入っていく。

○高橋市長 どっちかという、パソコンなんかにはまったりして一人で満足しちゃっている、人との会話が失われつつあると言われていて。これをどうやって開放させるように。自分だけに固まらないで、多くの人とつき合うような形をつくっていかなくてはいけないと思うのだけどもね。それにはどうしたらいいかというのはなかなか難しいと思うのだけど、社会教育の中で真剣に考えていただく。

○吉田教育長 若返りというか団体の活性化というふうに一口で言うのはたやすいんですけども、今、市長さんがおっしゃったように、ある団体は若返っているところもあるし、そうでない団体もあったりして、総体的にはなかなか活性化が図られていないというところで、それぞれの団体のリーダーは悩んでいらっしゃる方は多いという

のは事実でございます。

ところが、今後の平均寿命の延びなんていうのを考えると、「人生100年時代」と言われ、一方ではそれを見据えた生涯学習の推進というのを進めていかなければいけないのだろうというふうにも思っている。1つには、学んでいるだけではなくて、活動することによって自己実現を図るといような、そういう仕組みができていくといいのかなあというふうには思っているところなのです。じゃあそれが全くないのかというと、あることはあるのですけれど、それが大きな循環になっていない状況にあるのかなあというふうにも考えているところです。実際には、団体のリーダーの考え方一つで変わっていきますので、その人たちの養成、人材育成というのが大事になってくるのかなあというふうにも思うわけで、なかなか難しい問題だなあと。生涯学習課長はどうですか。

○福田生涯学習課長 23日から26日の間、市民文化祭に1万人弱の方にお越しいたごましまして、その中の出演が3,000人以上でございまして、何らかの形で展示かステージに上っているかという状況でございます。教育長がおっしゃったように、若い人に関しましては邦楽ですね、三味線とか尺八、邦楽については師匠のお嬢さんとかが後を継いで、その道に入っているというような状況がありまして、若い人もいらっしゃる。それから、郷土研究会のように越谷市の昔の暮らしとか文化を研究しているところは、一線から退いた方々が自分の余暇時間を使いながら研究しているという状況です。

若い人への啓発についてですけれども、確かに人生100年時代になりますと、教育、それから労働、引退という3段階があるとして、20年間で教育し、20歳から60歳で労働し、さらに残りの40年間という長い期間がありますので、この期間をいかに充実した暮らしを送るかというところがあるかと思えます。その中でさらに学習をします。要するに、これまで来た教育の20年間では足りず、残りの40年間のために60歳前後から新たな学びをすとか、それから新たな技術を身につけるとかいったようなことも必要になってくるかと思えます。収入に結びつく学習とか、またでき上がった自分の工芸作品を材料代ぐらいで売って、それをまた自分の学習教材に当てるとか、そういう循環させるというようなことも必要かなあと思っております。

また、とかく孤立しがちな状況がありますので、学習活動については、生涯学習はまちづくりということもございまして、なるべく仲間をたくさんふやして、公民館の学級講座も修了後はクラブサークル化するようにということでお声かけはさせていただいております。自分も公民館にいたときには、講座・講習会が終わったところ、誰か目ぼしい代表者を探して、あなたが会長になってクラブサークル化してください、新たな会員を集めてくださいといったような働きかけはしてきたところでございます。それぞれ

皆さんお考えがありますので、その考え方を余り曲げることなく、生涯学習の振興につきましては地道にやっというふうに考えています。

○吉田教育長 若い人たちをどんどんそういう場に積極的にかかわらせるというような形では、わずかな動きですけれども、例えば「川のあるまち」には子どもの作品の枠を広げてみたり、あるいは市展なんかには高校生の参加を呼びかけたりとか、あるいは発掘調査なんかにも積極的に、スリーデイズ、ツーデイズという形で中学生を参加させたり、というようなことでの工夫はしているのですね。

○福田生涯学習課長 「川のあるまち」につきましては、なるべく小・中学校からも作品を応募できるようにということで、学校の先生方のほうにPRして多くの子どもたちにも参加をいただいております。市展とかの絵画とか、そういった芸術作品につきましても、高校の美術部に足を運びまして、子どもたちがプロの先生方の評価を受けて講評をいただくといったことで体験することによって、興味・関心を一層高めると、そういったことをやっております。

○吉田教育長 この前、コミセンで南越谷小学校の創立記念日があったんですけれども、そのときにオープニングセレモニーがあって阿波踊りを踊っていただいたんですね。そのときに私がいいなあと思ったのは、子どもたちと、それから地域の大人たちが一緒の舞台上で踊っているのですね。普段からそういう指導をしてくれているのです。そういったようなつながりが、ああいう舞台上で展開されているのを見て、生涯学習というか、地域の文化の継承みたいなものの一つのあり方かなあ、というふうに思っただけ感動して見ていたのですけど。そういったものを多く仕掛けていくというのも一つの方向かなあというふうに言えると思います。

スポーツ振興課ではどうですか。

○矢部スポーツ振興課長 地区でも体育祭の関係で工夫が大分入ってきたなという感じは受けています。大人が子どもたちを巻き込んで、子どもたちを中心にフェスティバル的な体育祭にちょっと移行しているところもありますので、そういった面では何か新しいことに取り組んでいかないと、なかなか多くの人を巻き込んでいけないのかなというふうな感じは受けています。

○吉田教育長 最近、地区の体育祭では、割と子どもを引き入れている地域が多くなってきている。子どもが来れば大人も来るのですね。例えば綱引きなんかをやっていると、子どもが綱引きをやっている中で、大人が周りでかなりエキサイトして応援しているという風景は非常に好ましく受けとめているのですけれども、そういうのが見えてきているかなあと。ある地区では高齢化しているところ、行ってみたら、非常に子

どもたち、あるいは若い人たちが出ていっている。それぞれの地域、あるいは団体のリーダーの考え方によって随分運用が違ってくるなあというのは感じてはいるのです。当然ながら、そういうことができないまで高齢化している地域もあるので、一概には何とも言えないのですけれども。まだまだ諦めるというか、しょうがないのだなんていうふうに思うことなく改善を加えていく、あるいは働きかけていく余地は残されているのだというふうには思っているところです。

○高橋市長 桜井地区では、地区体育祭が大分、五十二、三自治会あるんだけど、20を切ってしまったらしいのだよね。それで、子ども会は子ども会で体育祭をやっていたのを、去年から合同で子ども会と地区体育祭を一緒にやろうといたら大勢参加するようになったということで、子どもたちと地域の人たちが一緒になってやるということは、非常に私も感銘を受けました。ああいう形のをほかの地域でも見習ってやっていくようにすれば、参加者もふえてくるだろうし、また、体育祭に限らず文化活動なんかについても言えるのだろうなあと思いましたね。

あと、よくいろんなイベントのときに、最近、小・中学校のブラスバンドを頼んだりしてやってくれているよね。あれは地域の人たちもいいし、私は子どもたちにもすごい励みになっていると思う。やっぱり習うだけではなく、習ったらそれを発表する機会をつくらなくては。そこでまた多少のいい悪いは出てくると思うのだけれども、次はより上手になろうとかという気持ちが湧いてきたり、大勢の人から拍手をいただくと、それでまた気分もぐっと引き締まってさらにやる気になってくるだろうという感じは持って見えていますけどね。

だから、大変だと思うのだけれども、小・中・高校生なんかが出るのはいい発表する機会として捉えてくれれば、私はありがたいなと。また、こっちから余り言うとは押しつけみたいになるのだけれども、そうではなくて、ふだんの練習をぜひこういう場で発表してくださいという形でうまく接していけば、お互いにいいのではないかなと思いますよね。これはスポーツも文化活動も共通したことが言えると思う。そういうものをもっともっと進めていくようにね。

昔から子どもは褒めて育てろという言葉が、よく前の校長先生からも話を聞いたことがあるのだけど、褒めるということは大事なのだよね。より自信を深めていくから。その辺を大いに進めて行ってほしいよね。スパルタ教育なんて昔は言っていたけれども、それも一つの方法かもしれないけれども、余りにもスパルタでやると、逆に芽をつんでしまうというようなこともあるからね。

あと、学校の先生には、一人一人ができるだけ専門的なものを持っている先生を多く

つくってくださいよ。これは私の注文だけど。先生がいい先生、指導者と、そうでない名前だけの顧問だとか何かというのとは全然違うから。今、高校のスポーツなんかは最たるものだよ。優秀な先生のもとではどんどん技術も伸びて、どんどん上に勝ち上がって行くけれども、そうでないところは相変わらずの低空飛行でしょう。これをやっていくにはやっぱり指導者。指導者不足だということで外部指導者を入れたりしているけれども、これはまた難しい、別の面が出てきて大変だということがよく言われていますよね。この辺、難しいから、できるだけ先生に得意な技術なり何か持ってもらうとありがたいなと。これは希望です。全てそうしなさいというわけにいかないから、ぜひそういう点も念頭に置いて教育委員会でも取り組んでいただければありがたいと思います。

○吉田教育長 今、働き方改革と言われていて、一番ターゲットになっているのは部活動。でも、自主的に先生方が一生懸命やっているということに頼り過ぎて、いわゆる長時間労働みたいなものが常態化するということであると。これは逆に制度疲労を起こす可能性もあるので、今の働き方改革の中で、少し抜本的に考えていく必要があるのかなと考えています。

○高橋市長 議会でもしよっちゅう出ているね。先生方の残業が多いと。ゆとりも何もあったものではないということで、何とかならないかという面もあるのだけど。だから、私は学校の先生方、もちろん労働時間、一定の決められたものがあるから、その中でどうやって個人の負担だけが突出するようなことがないようにするかというのが大きな課題なのだけれども、時間だけにとらわれていたのでは、子どもの教育に十分行かないのではないかなという一面もあり、そこがちょうど難しいところで、私も一概にはなかなか言い切れないものがあるのだけれども。昔から、聖職だということで、大分先生方が期待され、一方批判が大きく分かれていたけど。でも、その辺は中身をよく整理しながらやっていく必要があるのではないかなと思う。

○吉田教育長 知識の習得だけでなく、部活動なんかも含めて全人的な教育を進めてきたという、いわゆる日本型の教育のよさというのはあると思うので、それを失うことなく進めていかなければいけないという、基本的にはそういうふうには考えているんですけれども。どうなるかわかりませんが、これで選挙があったので労基法の一部改正が先送りになってしまいましたけれども、この辺がどういうふうに変ってくるかで、今後、考え方を考えていかなければいけないという部分も出てくるかなと思っているのですが。そうした国の動向を踏まえながら対応していかざるを得ないというふうには思っているところです。

○高橋市長 社会教育、民間のスポーツだとか団体に寄与するというか、そういったも

のは進めるようにという方向性はある。学校教育にだけ頼り過ぎていると。小学校はまだ少ないけど、中・高、大学は、学校の部活、そういうスポーツ団体なんかに期待されていて、一般の社会団体、任意の団体が余りにも少な過ぎると。最近では会社も、いわゆるノンプロ的な部門も減ったのだよね。あれ前はいろんなスポーツ、会社なんかはPRの一つとして使っていたのだろうけれども、だんだんと減ってきた。これは国も一定の方向性を示す必要があるのだろうと思う。そういうレベルになると、我々もなかなか力及ばずですが、一般の地域社会でのスポーツクラブとか、文化活動とか、そういったものをもっと広めてもらおうとありがたいのだけれどもね。学校の先生方も、多分恐らくそういう点で期待していると思います。

○吉田教育長 国のほうでは、引率もできるという、いわゆる部活動指導員制度というのを始めたのですけれども、しかしながら予算規模が残念ながら小さいものですから、では何人ぐらい割り当てられるのかといったらわずかな数でしかない。民間の活用も考えているということだったのですけれども、そんなことも含めて国のほうには要望してきたのですが、まだ取り組み始めたばかりで、なかなか思い切った有効な手段にはなり得ていないというのが現状かなと思っています。

○高橋市長 東京オリンピックが3年後に控えているのだけど、社会的なスポーツの育成というのは全然見えていないよね、国の方針。オリンピックは日本で開くということだけは声高に言っているけど、選手の育成とか何かというのは余りないよね。オリンピックがあるからと、観光振興だとか、外国人の誘致というのは、何かそういう話だけがいっちゃっていて、肝心の選手や何かの育成だとかというのは余り聞いていない。

○矢部スポーツ振興課長 北区にナショナルトレーニングセンターというのをつくりましたので、そこで合宿みたいな形で、そこから学校に通わせるとか、そういったこともやっていますので、ここで例えば卓球の選手が大分出てきたとか、バドミントンの選手が大分出てきたとか、その意味ではオリンピックに向けて成果は出てきているのではないかなというふうに私は感じています。

○高橋市長 そこで優秀な選手を集めて育成しているんだ。

○矢部スポーツ振興課長 はい。

○吉田教育長 県でも何かやっているか。

○矢部スポーツ振興課長 はい、海外遠征とかありますので、そういう選手に少しお金を渡す、とかということも県のほうではやっていただいています。

○吉田教育長 一部のそういうエリート集団をつくるということについては、オリンピックで勝てるということについてはやっているのですけれども、あまねくということ

になると、学校体育にずっと頼ってきたという経緯があるのですね。その部分で部活動が取り上げられていることに対しては、国のほうでも、中体連とか、小体連とか、高野連、高体連なんかと話を詰めながらやっていくと言っているのですけれども、なかなか抜本的な思い切った改革は今のところは見えてこないということですかね。

○高橋市長 特に義務教育では一定の限界もあるだろうから。今、高校なんかは二分化しているよね。勉強を中心のところとスポーツを中心にどんどん、高校でも特に体育なんかで秀でるような子どもを集めてやっているような。それもある程度やむを得ないかな。大企業がやっているのと同じように。義務教育の世界では、自治体がそこまで、どこの学校というわけにはいかない。同じようにやらなくてはいけないから。

○住田委員長 今、オリンピックに向けての、まさにそういうエリートの問題と、全体のあまねくという言葉が教育長が使われておりました。まさに国民全体がレベルアップ、それからオリンピックを迎えるに当たっての、国際化が図られるとか、英語教育なのですけれども、例えばさっき教育長さんがちらっと言われていましたけれども、もう少し学校教育の中で、大学の入学試験もどんどん変わって行って、民間の英検など、そういうものを取り入れていくという方向にどんどんなってきていますね。きのうの埼玉新聞でも、国立大学の中で一部そういう中でちょっと懸念があるのだというようなことが出ています。もっと国際化、それからオリンピックを機会にして語学教育を伸ばすことに対して、ちょっと感じているところはないですか。例えば越谷の教育の中で語学が強いとか、そういう方向というものをこれからつくっていかなくてはならないのではないかなと思うので。3級以上が50%を目指して、今、とてもそんなようなレベルにはなっていないと思うのですけれども、どうですかね。

○高橋市長 今回の語学のレベルはどのぐらいなの。

○小林指導課長 英検でいいますと、文科省は3級以上を50%と想定しているところで、28年度、本市でいうと、3級以上の資格を取った生徒が24%です。あと先生方に調査をして、実際どのぐらいの子どもたちが中3で英検3級ぐらいになっているかという調査を見ると、大体40%ぐらいというところですよ。ですから、英検は個人でお金がかかるものですから、受験しない家庭もあるので、そういう機会を等しく与えることによって、そういう子たちも英検3級以上を持たせて、できれば、上の子はもっと、準2級とかそういうのも取るような形にしていけたらいいと考えています。

○吉田教育長 ちなみに、4月に県の学力・学習状況調査で、中2・中3に対して英語の試験をやっているのですけれども、ALT等を配置していただいていることもあろうかと思っておりますけれども、まあまあ頑張っているというふうには言っているのですかね。

- 小林指導課長** 県の学習状況調査については、28年、それからことし、29年度、2年間については、全ての項目で県平均よりも上回っているというのが中学校の2年生、3年生の現状ということになりますので、これはALTの配置をしていただいている非常に効果的であろうというふうに捉えております。
- 高橋市長** 英検の3級というのは、英会話だとか何かといった場合、どの程度なの。
- 小林指導課長** 英検3級は、基準というのでいうと、中学校卒業レベル程度の英語がしっかり使える、なおかつ英検の試験には面接でのヒアリングがありますので、筆記だけではなくて会話能力も試された上で3級という、大体中学校卒業程度というような形で基準になっております。
- 高橋市長** 日常の会話的なものは3級でできるのか。
- 小林指導課長** そうですね、簡単な日常会話、私も何十年か前に3級を受けて取ったのですけれども、日常的な会話ができる。そんな難しくなくて、例えば買い物に行つて何か欲しいものを伝えて、それについてやりとりが簡単にできるという程度の会話ができる。
- 吉田教育長** 国のほうでは、そういう聞くとか話すとか、ヒアリングとか書く程度までははかれても、いわゆる話すということについてなかなか一般のテストでは難しいということがあって、民間の資格テストを共通テストの評価に加えるというような方向で今検討しているということなのですね。それが今の中3が大学に行くときには、そういう制度で大学の入試を受けるということになる。
- 住田委員長** 民間の力、そういうものを活用していこうという今方向に来ているものですから、越谷もそういう方向にこれから育てていってほしいというのは思うのですけど。
- 高橋市長** 国際化と言うけれども、まず言葉が通じない日本の一番の欠点があるわけだよな。言葉をまずは平常な日常会話ができるところから始めないと、何が国際化だという。全然意思疎通、私なんか全然できないから、非常にそれはおくれを感じるのだけれども、やっぱり最小限の会話ができるようにならないと国際化とは言えない。日本人が海外に行ったときに、書けなくたって、会話ができれば、ある程度通じるしね。意味は辞書を引けばわかる。まずは日常会話、これが大事だと思う。
- 吉田教育長** 中・高6年間勉強しても、しゃべれはしないというのが今の教育の批判でもあるので、そういったことも含めて、そういう制度改革を今進めているのだらうと思うんです。
- 司会** それでは、よろしいでしょうか。

それでは、基本目標 2 の生涯学習につきましては以上といたします。

基本目標 3. 生涯スポーツに入りたいと思います。

御意見等はございますか。

○堀川委員 今、生涯学習のところでいろんなスポーツの話にも話題が及びましたので、私からまた特にとということもないのですけれども、最近、まちの中を見ても、市民ランナーの方やウォーキングされる方、場所によってはゲートボールをされる方たちとか非常に多く見られるなあというふうに感じております。総合体育館に行くと、いろんな種目、高齢者の方たちが数多く参加しているのを見まして、スポーツ熱は、オリンピックを受けましてまたさらに機運は高まると思いますし、ポスターやテレビなんかのスポーツ特番なんかでもやっていますので、また自然に盛り上がってくるのではないかなというふうにも感じております。生涯学習のところで芸術文化活動とも一緒なのですけれども、健康増進とともに人間としての生きがい、自己実現の一つとしてスポーツはすごく意義のあることと私自身もやっていく中で感じております。

また同じような話になってしまいますけれども、とりあえず体を存分に使うことが子どもたちにも必要かなと思って、先日、西中学校で研究授業、荻島小学校、宮本小学校、西中、3校の体育の授業を久しぶりに授業参観させていただきましたけれども、非常に体をよく動かして、体力面に関しても感心して帰ってきましたので、学校体育の中で基礎体力をますます増進させて、生きがいとなるような生涯スポーツへと移行していくといいのかなというふうに思います。

先ほどのAIの話でもないのですけれども、今、ゲームでスポーツの対戦をする、世界大会みたいなものがある、そういったほうがまた注目されて、スポーツに親しむということでは一つ意味があるのですけれども、自由に使える自分の体を持っていないと、事故や、けがや、そういったことの予防にもなりますので、簡単に転んで骨折したり頭部を打撲したりというような子どもも多くいるようなので、自分の体をしっかり使えるように教育していくことも今後必要かなというふうには感じます。

また、先ほど組織という話も出ましたが、各団体、いろいろ創意工夫をして頑張っていらっしゃるなというふうに感じております。若い人との交流という、今後の発展にはますます必要かなというのは本当に同感でありまして、またここにもありますような、なかなか組織に入りにくいといった方でも、このスポーツボランティア等の活動に興味のある人たちにどんどん広めていって、横と縦との人間関係が繋がった中で自然に地域スポーツ、クラブ的なものがそのうち誕生してくればいいかなというふうには感じておりますが、今は各団体で同じように、老若男女、子どもたちも含めて一生懸命

やっているとところが多く見受けられますので、しばらくはこういう形で、各専門的なものを生かしつつ各団体が発展していく方向かなというふうには思っていますけれども。

あとは施設の充実ということで、今年は屋外の体育施設の充実ということになりますけれども、私も武道場、剣道場の床の張りかえをしていただいて、非常に使いやすい、動きやすいいい床で、パフォーマンス力も上がっていると自分では感じておりますので、予算の問題もありますけれども、老朽化しているところを優先順位をつけつつ、今後、施設の充実ということもあわせてお願いできればと考えております。

○高橋市長 スポーツ施設の整備・充実については一生懸命やりたいと思うのですが、あれは金がかかる。特に野球場の漏水は非常に頭に残っているのですけれども、ちょっとやそっとでは解決が図られないね。だから、廊下をドーム型にしてつくって、廊下を雨漏りから避けるためにドーム型にしちゃえばいいじゃないかと。流れてきた水は誘導して外へ出してと。ちょっと極端な素人的なことを言っているのだけれども、どうしても年数とともに漏水だとかあるから、徐々にやっていきたいと思えますね。

あと、私はさっきもちょっと言ったけれども、一にも二にも指導者。指導者を、一般社会人も含めて、特に一般の指導者をもっとつくる必要がある。今、指導者研修とか指導者育成というのは、どの程度やっているの、今は。

○矢部スポーツ振興課長 指導者育成といいましょうか、スポーツ推進委員という方が定数30ある中で、2人今欠けていまして28名の方が鋭意努力してもらっているところなのですが、特に学校におけるドッチビーとかといって放課後のスポーツですね、こういったものの指導だとか、それからちょっとメインで2月にやります縄跳び大会ですね、これはかなり数多くの小学生が集まってやっていると。それから、全国的な研修等へも進んでいってくれていますので、スポーツ推進委員に関してはかなりレベルの高い指導者がいらっしゃるといふふうに私は思っております。ほかの自治体と比べても、ひけはとらない、かなりうちのほうは進んでいるというふうな感じは受けています。ただ、その方々がやっている指導が、直接どちらかという社会人にまで通用しているかという、またこれはちょっと違うのかなという感じも一方では受けております。

2年に1回ですけど、スポーツ・レクリエーション活動を週1回以上行う成人という世論調査をやっているわけなのですが、ここで一番スポーツをやっていない、全然行っていないという方が、男性だと50代が40%を超えている、それから女性ですと40代が47%ぐらい全然やっていないということで世論調査の結果は出ています。高齢者の方につきましては、多分、市長もおわかりだと思っておりますけど、市民プールなんかですと本

当に満杯の状態、トレーニングルームは制限しているぐらい満杯でございます。高齢者の方が多分時間がきつとあるんだらうと思います。50%どころじゃなくて、それ以上超えているような状況です。

ですから、これはスポーツに限らず、先ほど生涯学習の関係も出ましたけど、働く年代の方をどうやって巻き込んでいくかというふうな話になってくるかと思うのですね。私どもが役所に入ったころと今の状況を見ると、特に共働き世帯が、今60%ぐらい恐らく共働き世帯はいつていると思います。私どもが入ったころ、35年から40年ぐらい前は35%ぐらいが共働き、今は60%が共働きというふうなことになりますと、お互い仕事から帰ってきてスポーツなり文化なりに携わるといって、かなりハードなのかなと。最終的には本人の意欲だとか、意思だとか、恐らくそういったところにいつてしまうのではないかなというふうに思いつてしまうと終わつてしまうので、その辺をどうやって改革していくかが私どもの役目というふうには思いつます。

今回、スポーツ・レクリエーションフェスティバル、市長もおいでいただいたと思うのですが、今回は残念ながら天気が悪くて屋外の施設は全部中止にさせていただきます。天気も悪かつたので、人の足も大分来ないだらうなという予測があつたのですが、その全く逆で、例えばボウリング場なんかはあふれたと。なおかつボウリング場から北体育館に行つて卓球をやつたという方もいらつしやいまして、ボウリング場は家族連れが非常に多かつたのですが、雨が降つたためなかなか外で遊べないから、近くのボウリング場でボウリングをやろうかということで、大変盛況で70名ぐらいの方がいらした。

○高橋市長 助成したの、ゲーム代。

○矢部スポーツ振興課長 ゲームは、連盟のほうが無料で2ゲームできるということだったので、その辺があつたのかなあという感じは受けていますけど。通常でやれば1,000円ぐらいかかるのでしようけれども、レクリエーション協会がやつていただいているスポーツ・レクリエーションフェスティバル、非常にいろんな方がおいでになっているということもありまして、この辺は今後も継続的に続けていきたいなというふうに思つております。

○吉田教育長 ベッドタウンという性格があるので、勤務して疲れて帰つてきて、じゃあ越谷でまた運動というのはなかなか難しいのだらうと思うのですけれども、今、キーワードとしては家族で楽しめる、手軽に。こういった機会を、一番手っ取り早いのは、さっき言つたスポーツ・レクリエーションフェスティバルみたいなのがいいと思うのですが、そういう機会をふやす、あるいは見ることによって触発されるということもありますので、そうした機会をふやすというようなことから始めていこうとして

いるというふうに考えていいんだよね。

○矢部スポーツ振興課長 はい。それも必要だと思います。

○高橋市長 私は市役所の職員にハッパをかけているのだけど、今のクラブ活動はあるのかないかわからないような状態がある。昼休みなんかぶらっと行って、机にへばりついているから、昼休みぐらい机から離れたらと声はかけるのだけれども、やる場所がないからなかなか、ではどこへ行ってやるのですかと言われてたら、それがはね返ってきそうなのだけども。これも一面には私はリーダーだと思うのだよな。何かスポーツ活動、クラブ活動なんかもっとやろうと。中学、高校、大学でやっていた職員も結構いる。これをどうやっていくかというのは、やっぱり指導者なのですよ。あなた、ここでやっていたよね、やろうという声かけか、そういうのが私は大事だと思うのだよな。だから、一般社会、地域でも、やろうやろうと積極的にやっているところは結構進んでいると思う。それがどうも全体的に、さっき教育長が言ったように、家族主義が非常に蔓延しつつあるという、そういう傾向もよく言われる。これをどうやって脱皮させるかというのが大きなこれからの狙い目というか、取り組み方だというふうに私は思っている。だから、市の職員の福利厚生を少し増額してもいいという。本当に幾らも申請もないのだから。聞いて非常に残念な思いをしたのだけどね。

若いときに元気よくいろんなことを経験する、また仕事だけではなくて頭の切りかえも大事なのだと、私はそれも言いたい。そういうのが一般の人だってそうだと思うのだよ。家庭に埋没するだけではなくて、外へ出ていろんな人と交流しながら汗をかいて楽しむということは、私は生活上大事なことだと思うのだよ。だから、もっともっと指導者育成、指導者推進委員というのはいると言うけれども、これは限られた人だと思う。長くやってクラブをリードしてやっている人だと思うのだよな。だから、これはこれでよしとするけど、この範囲にとどまっていなくて、もっと広く指導員を育成して、そこから、さっき福田生涯学習課長が言ったように、指導者、クラブ活動を独立させてやっていくという。これはスポーツも文化もそうなのだけど、一定の講習会をやったら、その後は独立してもらおうというような進め方は、私は前から大事だと思っているし、もっと進めてほしいなと思っているのですよね。ぜひ指導者育成については、もっともっと力を入れてほしいということ、いつも期待しているのです。

○司会 ほかにございませんでしょうか。

それでは、平成30年度教育行政における重点的な取り組みにつきましては、以上で終了とさせていただきます。最後に市長から一言お願いします。

○高橋市長 まだまだいろんな取り組み方なり、希望、期待するものもたくさんあると

思うのですけれども、とにかく私は人が人として生活していくためには、学校教育、生涯学習、スポーツ振興、生涯スポーツか、これらについては本当にどれもこれも大事なことだと思imasるので、これからもしっかりと、一歩でも半歩でも前進するような取り組みをぜひお願いしたいと思っています。よろしくお願ひします。

○**司会** 次に、協議事項(2)のその他でございますが、本日の協議事項以外で皆さん方から何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ないようでございますので、以上で本日の協議事項を終了とさせていただきます。

最後に、事務局から今後の予定等につきまして報告をお願いいたします。

○**事務局** 本日の第1回総合教育会議の概要につきましては、本市ホームページに掲載することで公表をしてみたいと考えております。また、今後の総合教育会議の開催につきましては、次回の日程が決まり次第、皆様に御連絡をさせていただきます。

事務局からは以上でございます。

○**司会** それでは、以上をもちまして本日の総合教育会議を終了とさせていただきます。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

○**高橋市長** どうもありがとうございました。ひとつ今後ともよろしくお願ひします。連携してやっていくということで、しっかりお願ひします。

越谷市総合教育会議運営規程第5条第4項の規程により署名する。

市 長 高 橋 努

教育委員会委員長 住 田 俊

教育委員会委員長職務代理者 堀 川 智 子

教 育 委 員 進 藤 秀 子

教 育 委 員 荒 木 明 子

教 育 長 吉 田 茂